

## 四旬節第二主日

2010. 2. 28

高円寺教会 7:30 ミサ

ルカ 9・28 b-36

例えば、恋人同士が、港の見えるロマンチックなレストランで、ワイングラスを傾け合っているとします。その時、二人の心にある思いとは、どういうものでしょうかね。恐らく、「この時がいつまでも続きますように」という、祈りにも似た気持ちではないでしょうか。私たち人間は、素晴らしく、そして幸福な状態にあるとき、その状態がいつまでも続くように、何とかこの状態を維持できるようにと、懸命になるものなのでしょう。「時間よ、止まれ！」と叫ぶようなものです。

今日の福音で、「仮小屋を三つ建てましょう！」と叫んだペトロも、同じ思いだったのではないのでしょうか。勿論彼は、イエス様を素晴らしい先生として、尊敬してはいたでしょう。しかし、いまいち「イエス様」という方の本質とといいますか、真実の姿が分からなかった。今日の福音の直前に出てくる話ですが、ペトロが「あなたはメシアです」と言えば、「シモン、あなたは幸いだ」と言ってくださる。しかしそのすぐ後に「私は殺される」なんて言うもんだから、「そんなことがあってはなりません」と言えば、「退けサタン！」と怒られてしまう。イエス様について行きながらも、「何かヘンだなー？」と、ペトロは常に迷っていたのかもしれませんが。そこにいきなり今日の福音、イエス様の「ご変容」がきた。自分の先生が栄光の光に包まれ、旧約聖書の代表選手、モーセ、エリヤと話をしている。ペトロにしてみれば、まあ「ひどく眠かった」なんて書いてありますから、どの程度のものか分かりませんが、「ついに来た！」という思いだったのではないのでしょうか。「世間のやつらは色々言うが、やっぱりオレの先生は神の子だ。それが証拠に、このまばゆい光はどうだ。すごいぞ！」。ペトロは何とかこの状態、すなわちイエス様が自身から光を放ち、モーセとエリヤがそのそばにいる、この状態を永遠たらしめようとしていました。それが「仮小屋を三つ建てましょう！」という言葉になったのでしょう。

しかしそんな「素晴らしい状態」は、雲がイエス様たちを覆い隠すことによって、あっという間に無くなってしまいます。悲しみ、苦しみのない、主の栄光に包まれた場にいつも留まっていたい、それは人間にとって自然な欲求かもしれませんが。しかし神様の思いは、人間の思いとは異なります。「素晴らしいところ」「快適なところ」に留まることなく、悲しみ、苦しみの尽きない地上に降り立つ、それがイエス・キリストという方でした。目に見える素晴らしい状態は一瞬にして消えうせた。そして残ったのは「愛する子」イエス・キリストただお一人。神様は「これはわたしの愛する子、これに聞け」と、私たちに仰せられます。それは、見た目やうわべにとらわれることなく、イエス

様の生き方に目を注ぎ、そこから私たちの生き方を学べということなのでしょう。

イエス様は「山」から降りて行きます。悲しみ、苦しみのない天から、私たちの地上へ降りてきてくださり、私たちと共に住んでくださいます。その先にあるもの、それは大いなる苦しみと十字架の死でした。しかしイエス様は、父である神様に全てをゆだねて、この苦しみの道を歩んで行かれた。この従順によって、神様はイエス様を「良し」とされ、復活の栄光に引き上げられました。

今日の福音の内にあるもの、それは見た目の華やかさとは裏腹の「受難」であります。イエス様のたどる道、それは人間的見地に立てば、「喜びと栄光への道」ではなく、「苦しみと暗黒への道」です。十二人の弟子にとっては、イエス様のたどっている道は、正に「死への道」と映ったかもしれません。「喜びと栄光を追い求める者」にとっては、余りにも辛い事実でありました。しかし私たちキリスト者にとって、これはどうしても通らねばならない道なのです。そう認識したときにこそ、私たちは人間の思いにではなく、神の思いに心を合わせることができるのです。苦しみは、できたら避けて通りたい。それは全ての人間の気持ちです。イエス様でさえ、ゲツセマネの園で「できるならこの苦しみを遠ざけてください」と神様に祈りました。しかしこの世で人間が生きていく中で、「苦しみ」というものを避けて生きることができないのも、また事実です。その人間が避けて通れない道を、神のひとり子が十字架を担って歩いていきました。神様と同じ身分でありながら、その身分に固執することなく、仕える者として、奴隷として、苦しみの道をたどることによって、神様は人間の苦しみに決して無関心なのではなく、むしろその苦しみを共に担ってくださることを教えてくださったのです。

今日の福音で、圧倒的な輝きを放つ光景を目の当たりにし、永遠にその状態を保たせようとしたペトロに対し、天の神様は「これに聞け」とイエス様ただ一人を示されました。「イエスだけがおられた」。そうなのです。私たちキリスト者には、イエス・キリストの生き方以外に学ぶべきものはないのです。私たちがイエス様の生き方に学び、復活の栄光にあずかることができますように、ご一緒に祈りましょう。

カトリック高円寺教会  
助任司祭 林 正人